

日本看護歴史学会 会報

日本看護歴史学会
第39号
2002年12月20日

日本看護歴史学会第十六回大会を終了して

平塚朝子 (山形県立保健医療大学)

山形としては、第十回大会以来二回目の開催となりました。ここ数年来の本学会の内容の広がりや深さと、歴史を学ぶ者の増加に目を見張る思いがしました。

今年度は会長の意向で、サブテーマを「現代の看護の源泉への探訪」とし、看護の先輩たちが成し遂げた看護改革・活動をとおして、社会から看護に期待されているもの、看護に何が求められているのかを再考する機会にしたいと考え、今大会を開催しました。

今大会には山形県立保健医療大学の廣井学長が参加され、インドのネールが獄中で娘に向けて、世界の歴史について書かれた手紙の一説「お前は覚えているだろう

か？凡人はいつも英雄であるとい

うわけにはいかない。毎日のパンやバターのこと、子供の世話、また暮らし向きのことなど、さまざま

な目標をつかみ、それに確信を持つようになる、たとえ単純な平凡な人たちでも英雄になり、歴史は動きはじめ大きな転機がやってくる。」を引用し、歴史を学ぶことが新しい明日への指標とのべていることを話され、そして今大会の学びが自己確立と看護学の発展につながることを期待したいとの、挨拶をいただきました。特別講演では、ナイチンゲールの「看護覚え書」への情熱と題し

て草稿から未発表の第四版までの改定をとおして「看護覚え書」の日本への紹介、「看護覚え書」の各版の特徴について詳細な資料に基づき講演されました。ナイチンゲールが「看護覚え書」に情熱を注ぎ真剣に創作された作品であることがわかりました。

また、第二次世界大戦の看護改革推進者オルトを語ると題した講演では、オルトの看護思想形成に影響した要因・生い立ち、看護思想、看護政策との関係について聞くことができ、オルト少佐の人となりを知る機会となりました。GHQに関連する地方の発表があったのも特筆すべきことでした。

研究発表では、発表者と出席会員の活発な質疑応答、示唆に富む参考意見もあり、熱気に溢れ充実したものとなりました。

さらには、看護師の旅「ナイチンゲールの看護を訪ねて」は参考書では目にもふれることのできない貴重な一六二枚の写真が展示されました。これは、一九八九年〜一九九九年の間六回にわたり訪欧したもので、六回すべての写真撮影とその編集をした高田さんに、分科会のIでスライドを上映し報告していただきました。

分科会のIIは四分科会でそれぞれ

に活発な意見交換が行われましたが、分科会の報告の時間がとれなかったことを反省しております。

蛇足になりますが、山形の芋煮はいかがでしたでしょうか？遠くからご参会いただきました会員の皆様、ご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。

第一七回大会予告

来年は、青森で開催することになりました。多くの皆様のご発表とご参加をお待ちいたしております。

◆大会長

ライダー 島崎玲子

◆大会テーマ

看取りの文化 古代から現代へ

◆開催期日

平成一五年九月五日(金)

〜九月六日(土)

◆会場

青森県立保健大学

◆内容

特別講演一

松木明知弘「八甲田雪中行軍事件」特に第五連隊と第三二連隊による搜索活動について」
特別講演二

新村拓「看取りの文化とその歴

史・古代から現代までの介護の歴史」

パネルディスカッション

ライダー・島崎玲子他「占領軍GHQ公衆衛生福祉局の医療看護政策と現在への影響」

分科会

田中幸子「日本の看護に関する法律の変遷」

山本春江「史料の力と地域看護学概論に史料教材を用いて」

斉藤クニ「診療報酬の推移と看護の評価と県内医療機関(中小規模病院)における看護の変遷について」

瀧川薫他「男性の看護参画・看護士から看護師へ」専門職看護への道」

一般演題

第二次世界大戦後の看護改革推進者オルトを語る―看護改革にかけた情熱―



連合軍最高司令官総司令部(以下、GHQ)公衆衛生福祉局看護課は五年九カ月の間に、保健婦助産婦看護婦法の制定、厚生省看護

大石 杉 乃

写真展

◆研究発表の申し込み

演題締め切り

平成一五年三月七日(金)

演題申し込み方法

演題名と氏名、所属、会員番号、連絡先を記入した官製はがきにて申し込んでください。

抄録締め切り

平成一五年五月九日(金)

◆大会事務局

〒〇三〇一八五〇五

青森市大字間瀬五八一

青森県立保健大学内

日本看護歴史学会第一七回大会事務局

電話 〇一七・七六五・二〇五四

FAX 〇一七・七六五・二〇五五

(福井、秋庭)

GHQの文書をはじめとする当時の記録や関係者からの聞き取り調査をもとに、①オルトが最新の看護教育を受けていたこと、②進駐前に日本の医療や看護に関する知識を有してしたこと、③オルトの看護思想は看護の専門職化を目指すものであったこと、④実施された看護政策すべてが専門職の条件を満たすものであったことが明らかになった。

オルトの活動と看護改革にかけた情熱には、ミッシヨナリー、看護婦、軍人としての三つの側面があった。

ナインゲールの「看護覚え書」への情熱―草稿から未発表の第四版までの改訂をとおして―

平尾 真智子

一般的にナインゲールの「看護覚え書」には三種類あることが知られている。それらは「看護覚え書」(初版)、「改訂増補版看護覚え書」(第二版)、「労働者階級のための看護覚え書」(第三版)の三つである。筆者は一九九九年にイギリスの古書店からナインゲールの「看護覚え書」の草稿ともいえる小本を入手した。一九九

二年にはイギリスの文学者スクレトコービッチ氏により、いわゆる第二版にその後加筆された追加分や一八七五年に執筆した三千語からなる未出版の原稿を適所に挿入し新たに編集された「看護覚え書」が出版されており、これらを加えると五種類の内容の異なった「看護覚え書」が現存することになる。

これらの五つの「看護覚え書」の内容を比較した結果、草稿段階でナインゲールが強調したかったことは「すべての女性は看護婦であること」「医者任せにしないこと」であること、初版から第三版までは読者に合わせて文の構成や表現を推敲・熟考・再考・苦慮していること、未発表の文章の存在からは時代に合わせて常に内容の更新をしていく必要性を感じていたこと、などがわかった。五つの「看護覚え書」の存在を知り、それらの内容の比較を通して、「看護覚え書」は文字通りナインゲールを代表する作品であることが真に理解できたとともに彼女がこの作品に対する情熱を感じる事ができた。

二年にはイギリスの文学者スクレトコービッチ氏により、いわゆる第二版にその後加筆された追加分や一八七五年に執筆した三千語からなる未出版の原稿を適所に挿入し新たに編集された「看護覚え書」が出版されており、これらを加えると五種類の内容の異なった「看護覚え書」が現存することになる。

これらの五つの「看護覚え書」の内容を比較した結果、草稿段階でナインゲールが強調したかったことは「すべての女性は看護婦であること」「医者任せにしないこと」であること、初版から第三版までは読者に合わせて文の構成や表現を推敲・熟考・再考・苦慮していること、未発表の文章の存在からは時代に合わせて常に内容の更新をしていく必要性を感じていたこと、などがわかった。五つの「看護覚え書」の存在を知り、それらの内容の比較を通して、「看護覚え書」は文字通りナインゲールを代表する作品であることが真に理解できたとともに彼女がこの作品に対する情熱を感じる事ができた。

二年にはイギリスの文学者スクレトコービッチ氏により、いわゆる第二版にその後加筆された追加分や一八七五年に執筆した三千語からなる未出版の原稿を適所に挿入し新たに編集された「看護覚え書」が出版されており、これらを加えると五種類の内容の異なった「看護覚え書」が現存することになる。

これらの五つの「看護覚え書」の内容を比較した結果、草稿段階でナインゲールが強調したかったことは「すべての女性は看護婦であること」「医者任せにしないこと」であること、初版から第三版までは読者に合わせて文の構成や表現を推敲・熟考・再考・苦慮していること、未発表の文章の存在からは時代に合わせて常に内容の更新をしていく必要性を感じていたこと、などがわかった。五つの「看護覚え書」の存在を知り、それらの内容の比較を通して、「看護覚え書」は文字通りナインゲールを代表する作品であることが真に理解できたとともに彼女がこの作品に対する情熱を感じる事ができた。

二年にはイギリスの文学者スクレトコービッチ氏により、いわゆる第二版にその後加筆された追加分や一八七五年に執筆した三千語からなる未出版の原稿を適所に挿入し新たに編集された「看護覚え書」が出版されており、これらを加えると五種類の内容の異なった「看護覚え書」が現存することになる。

これらの五つの「看護覚え書」の内容を比較した結果、草稿段階でナインゲールが強調したかったことは「すべての女性は看護婦であること」「医者任せにしないこと」であること、初版から第三版までは読者に合わせて文の構成や表現を推敲・熟考・再考・苦慮していること、未発表の文章の存在からは時代に合わせて常に内容の更新をしていく必要性を感じていたこと、などがわかった。五つの「看護覚え書」の存在を知り、それらの内容の比較を通して、「看護覚え書」は文字通りナインゲールを代表する作品であることが真に理解できたとともに彼女がこの作品に対する情熱を感じる事ができた。

二年にはイギリスの文学者スクレトコービッチ氏により、いわゆる第二版にその後加筆された追加分や一八七五年に執筆した三千語からなる未出版の原稿を適所に挿入し新たに編集された「看護覚え書」が出版されており、これらを加えると五種類の内容の異なった「看護覚え書」が現存することになる。

これらの五つの「看護覚え書」の内容を比較した結果、草稿段階でナインゲールが強調したかったことは「すべての女性は看護婦であること」「医者任せにしないこと」であること、初版から第三版までは読者に合わせて文の構成や表現を推敲・熟考・再考・苦慮していること、未発表の文章の存在からは時代に合わせて常に内容の更新をしていく必要性を感じていたこと、などがわかった。五つの「看護覚え書」の存在を知り、それらの内容の比較を通して、「看護覚え書」は文字通りナインゲールを代表する作品であることが真に理解できたとともに彼女がこの作品に対する情熱を感じる事ができた。

二年にはイギリスの文学者スクレトコービッチ氏により、いわゆる第二版にその後加筆された追加分や一八七五年に執筆した三千語からなる未出版の原稿を適所に挿入し新たに編集された「看護覚え書」が出版されており、これらを加えると五種類の内容の異なった「看護覚え書」が現存することになる。

